

特集

防災

～地震～

いつ起こるか分からない。近い将来の発生が危惧されている南海トラフ地震に備えましょう。

1月に発生した能登半島地震を機に、静岡県でも南海トラフ地震への警戒が強まっています。災害はいつ発生するか分かりません。被害を最小限に防ぐためにも、日頃の備えをもう一度見直す必要があります。

南海トラフ地震とは

南海トラフ地震は、駿河湾から宮崎県日向灘沖にかけての南海トラフに沿って起こるプレート境界型の地震です。国の試算では、最悪のケースとして全国で約32万3千人が犠牲となり、国民の約46%が被災者になるとされています。静岡県では約10万5千人が犠牲となると考えられています。

この地震は、日本で想定される最大規模の地震で、東日本大震災（マグニチュード9.0）と同規模かやや大きな地震（マグニチュード9.0～9.1）となると考えられています。震源域は東海から九州まで東西におよそ700キロおよび広い範囲で震度7の揺れが予想されています。



▲東日本大震災との違いは、南海トラフ巨大地震の震源域が住民の多く住んでいる陸域までかかっていることで、津波も早い所では数分で襲ってくるため、想定される被害が非常に多くなります。

想定される人的、建物被害

静岡県ホームページ参照

項 目		予知なし				予知あり		
		被害区分	冬・深夜	夏・昼	冬・夕	冬・深夜	夏・昼	冬・夕
人的被害	早期避難率高 呼びかけ	死者数	約 75,000	約 36,000	約 46,000	約 14,000	約 8,500	約 10,000
		重症者数	約 22,000	約 37,000	約 23,000	約 6,200	約 11,000	約 6,600
		軽傷者数	約 47,000	約 55,000	約 43,000	約 13,000	約 16,000	約 12,000
	早期避難率低	死者数	約105,000	約 67,000	約 82,000	約 14,000	約 8,500	約 10,000
		重症者数	約 24,000	約 33,000	約 25,000	約 6,200	約 11,000	約 6,600
		軽傷者数	約 50,000	約 58,000	約 46,000	約 13,000	約 16,000	約 12,000
建物被害		全焼・焼失	約257,000	約262,000	約304,000	約240,000		
		半壊	約270,000	約268,000	約257,000	約274,000		

能登半島地震被災地支援職員報告

地震の概要

発生日時：令和6年1月1日（月）16時10分頃
震源地：石川県能登地方 深さ16km
地震の規模：マグニチュード7.6
震度：震度7：志賀町
震度6強：七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町
震度6弱：中能登町、能登町
震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
震度5弱：白山市、津幡町、内灘町
震度4：野々市、川北市
津波注意報・警報：1日 16時12分津波警報発表。
16時22分大津波警報に切替。
1日 20時半津波警報に切替。
2日 1時15分津波注意報に切替。
2日 10時津波注意報解除。



1_ 派遣職員から大森凡世能登町長に川根茶を手渡す。2_ 建物の傾斜を調査する派遣職員。3_ 倒壊した建物。

「静岡県を含め日本は災害が多い。また、今後は南海トラフ地震の発生が予測される中、普段から災害を意識して備えることが大切である。安全・安心な川根本町であり続けたい」と述べました。

2月26日（月）川根本町役場本庁3階会議室で、能登半島地震災害派遣職員による事後報告会が開催されました。町は、県からの要請を受け1月下旬から順次、被災地へ職員を派遣しています。石川県穴水町では、住家の被害認定事務や避難所運営業務に従事しました。また、石川県能登町には備蓄食料約五千食を提供しました。報告会では、被災地の様子や課題、今後の防災施策についての思いが語られました。蘭田町長は、「静岡県を含め日本は災害が多い。また、今後は南海トラフ地震の発生が予測される中、普段から災害を意識して備えることが大切である。安全・安心な川根本町であり続けたい」と述べました。

緊急消防援助隊 活動報告

緊急消防援助隊ってナニ？

平成7年1月に発生した、阪神・淡路大震災の教訓から発足した大規模災害時における消防即応部隊で、平成15年7月に法制化されました。令和5年現在、全国6,629隊の内、静岡市消防局は指揮隊・援助隊・消火隊等の陸上部隊および消防航空ヘリ部隊の53隊が登録されています。



静岡市消防局島田消防署、加藤文浩司令



消防庁からの出動指示を受け、1月5日（金）から9日（火）までの5日間、緊急消防援助隊静岡県大隊として出動しました。派遣先である石川県珠洲市における静岡大隊（第2次）の活動は、情報収集および捜索・救出活動がメインとなりました。具体的には、倒壊家屋内の安否不明者の捜索で、建物内に取り残された住人がいるという情報を基に現場トリアージやマーキングを行いながら、1分1秒でも早期の救出を心掛けました。倒壊した2階以上の家屋のほとんどは、1階部分が押しつぶされており、特に、震源地付近の沿岸地域の建物被害は甚大で、追い打ちをかけるように活動3日目には降雪により捜索活動が難航しました。

今回の派遣を振り返ると、余震が続くなか進出ルートの道路の破損や寒冷地ならではの厳しい気象環境への対応が特に大変でしたが、自身が被災者にもかかわらず発災当日から最前線で懸命に活動する地元消防職員や消防団員を目の当たりにし、私たちが住む静岡県も大震災がいつ発生してもおかしくない状況であり、官民含めた防災力のさらなる向上が求められていることを改めて実感しました。

（緊急消防援助隊 静岡大隊 第2次派遣部隊 消防隊長 静岡市島田消防署 加藤文浩）

土砂災害に注意しましょう

山が多い川根本町では、集中豪雨、地震などにより土砂災害が発生しやすい環境にあります。また、近年は気象現象も変化しており、数年に一度しか発生しないような短時間の大雨や大型の台風の上陸により、全国各地で土砂災害が発生。町内でも令和4年9月の台風15号による影響で、累計雨量346mmを記録し、至る所で土砂災害が発生しました。突発的に発生する土砂災害は事前の予測が難しいです。前兆現象を把握し、早めの対策をとるようにしましょう。

崖崩れ



豪雨や地震などによって斜面が突然崩れ落ちる現象

特徴

数時間前 ▶ 斜面で新たな湧水が発生、湧水量の増加。

発生直前 ▶ 湧水の停止・吹き出し、斜面に亀裂が発生、斜面のはらみ出し、小石がボロボロ落下する。

地滑り

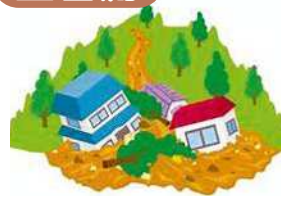


家や田畑、木なども一緒に、地面が大きな塊のまますべり落ちる現象

特徴

亀裂や段差の発生・拡大、樹木の傾き、根の切れる音、構造物のはらみ出しやクラックの発生、地面の震動、地鳴り、山鳴り。

土石流



長雨や集中豪雨により、崩壊土砂や川底の石が一気に下流へ流れる現象

特徴

数時間前 ▶ 川や流水の異常な濁りが生じる。流木が流れてくる。流内で軽石の音がする。

発生直前 ▶ 渓流の水位が急激に減少、地鳴り（ゴーという音）が聞こえたり土臭いにおいがする。

川根本町で 想定される被害

これらの現象を発見したら役場や地域の責任者に連絡するとともに速やかに避難しましょう。日頃からハザードマップを見て危険な箇所を確認しておくことも大切です。

避難までの流れ

1

準備

自分の命は自分で守る！日頃の備えをもう一度確認しましょう！

いざという時は誰もが助け、助けられる立場になり得ます。地震や自然現象による災害は止めることはできませんが、被害は日頃の努力で減らすことができます。

- ☐ 避難場所・避難ルート（近くの避難場所、避難ルートについて事前に確認しましょう）
- ☐ 災害時の家族との連絡方法（災害伝言ダイヤル、災害伝言板の利用方法を確認しましょう）
- ☐ 防災用品の確認（次ページの防災用品チェックリストを参考に確認してみましょう）

2

情報収集

テレビやラジオ等で気象情報を常に確認しましょう！

気象情報や被災情報を収集・分析・伝達することで迅速な対応ができます。被害を最小限に抑えることができます。

- ☐ テレビ・ラジオ（dボタンで地域情報を確認しましょう）
- ☐ 気象庁ホームページ【<https://www.jma.go.jp>】（警報・注意報・雨雲の動きを確認）
- ☐ 静岡県土木総合防災【<http://sipos.pref.shizuoka.jp>】（静岡県内の土木総合防災情報を確認）



3

避難

早めの避難をしましょう！

避難するときは戸締まり・火の元の確認を忘れずに、余裕があれば、お年寄りや子ども、身体の不自由な方、周りの人の避難に協力しましょう

- ☐ 分散避難（近くの親戚や知人宅、ホテルや車中など、指定避難所以外の避難も考えられます）

自分の防災について考えてみましょう

近年、激甚化・頻発化する災害から命を守るためには、行政による災害対策だけでなく、町民の皆様、一人一人の災害に対する心構えや知識と備えが重要です。地震や自然現象は、人間の力だけでは食い止めることはできませんが、自分の身は自分で守ること「自助」、地域や周りにいる人と助け合うこと「共助」、行政など公的機関による支援を頼ること「公助」が連携することで災害の被害を減らすことができます。また、防災の備えや個人の日頃の努力によっても減災することができます。今一度、日頃の備えを見直してみましょう。

防災用品チェックリスト

食料

- ☐ 水、給水袋
- ☐ 食品 ※3～7日分×家族分
(米、缶詰、レトルト食品、ビスケットなど)



身につけるもの

- ☐ 衣類、下着、軍手、手袋
- ☐ 雨具、ヘルメット
- ☐ スリッパ、長ぐつ、安全ぐつ
- ☐ メガネ、コンタクトレンズ



防寒対策

- ☐ アルミ保護シート、毛布
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ レジャーシート



貴重品

- ☐ 現金、小銭
- ☐ 車や家の鍵
- ☐ 口座番号、保険契約番号
- ☐ 身分証明書 (運転免許証、パスポート)
- ☐ 緊急連絡先 (家族・親戚・知人)



衛生用品

- ☐ 持病の薬、常備薬、お薬手帳
- ☐ 救急セット (絆創膏、包帯、消毒液など)
- ☐ 歯ブラシ、歯磨き粉
- ☐ タオル、洗面用品、ビニール袋
- ☐ ティッシュ、ウエットティッシュ
- ☐ マスク、消毒用アルコール
- ☐ 石けん、ハンドソープ
- ☐ 簡易トイレ、トイレトペーパー
- ☐ 紙おむつ、粉ミルク、哺乳瓶
- ☐ 生理用品、体温計



その他

- ☐ スマホ、携帯の充電器
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ LEDライト
- ☐ 乾電池、モバイルバッテリー
- ☐ マッチ、ライター、ろうそく
- ☐ ペン、メモ、笛やブザー
- ☐ はさみ、ナイフ



メモ

地域の防災意識と取組

町立三ツ星小学校の児童が能登半島地震の被災者（地）に「義援金を送りたい」と5・6年生で構成するSDGsセンター（福祉委員会）が中心となり全校児童や教職員に対し義援金の協力を呼びかけました。

2月16日（金）、SDGsセンターの代表児童、松下龍生さん、森下碧月さん、藤森叶羽さんの3名が役場に来庁し、集まった義援金85856円を藺田町長に手渡しました。町長は、「困っている人がいたら助けることは大切なこと。これからも優しい気持ちを忘れずに学校生活を送ってください」と感謝を伝えました。

また、役場本庁舎及び総合支所に1月5日（金）に設置した義援金箱にも、町民の皆様をはじめ多くの方々から義援金をいただいております。ありがとうございます。令和6年2月29日現在の義援金は、336176円です。



町長に手渡す（右から）森下さん、松下さん、藤森さん



1月28日（日）、徳山地区の愛宕地蔵堂で島田消防署、島田消防署川根北出張所、島田消防署川根南出張所、川根本町消防団（本部、3分団）、徳山自主防災会、町教育委員会が参加し、文化財防火デーに伴う防火訓練を行いました。

文化財防火デーは、昭和24年1月26日に奈良県にある法隆寺金堂が焼損したことから、文化財を火災などから守る事と文化財愛護に関する意識高揚を図るために、全国的に行われています。

本町においても、毎年文化財所在地の1箇所を選定し防火訓練を実施しております。

訓練参加者は、真剣な表情で訓練に取り組み、町の財産を守るため水消火器による消火訓練、消防職員、消防団員による消火訓練を実施しました。

1月20日（土）と28日（日）に、県主催の「地域で活躍する女性防災リーダー育成講座」が文化会館にて開催され、2日間で延べ54名が参加し、すべての講座を受講した34名に修了証が授与されました。

講座では、静岡大学グローバル共創科学部教授の池田恵子氏による講演や、あざれあ防災講師によるカードゲーム。NPO法人日本ファシリテーション協会災害復興委員会メンバーの鈴木まり子氏による、女性の視点から防災について「地域で今できること」を考えるワークショップを行いました。いざという時に備え学びました。

受講者からは「講座を受けたことで、私にもできることがあるかもしれないと自信が持てた」や「自主防災委員に女性枠を設けるよう呼びかけたい」などの声が多くあがりました。



町長に報告する又平さん（中央）

3月19日（火）から25日（月）まで、川根本町社会福祉協議会の又平大輔さんが、石川県中能登町への災害ボランティアとして派遣されました。

派遣先は同町災害ボランティアセンター。今回の派遣は、社会福祉協議会関東ブロック（静岡・長野・山梨・神奈川）からの依頼により、当町社会福祉協議会が立候補したことで実現に至りました。静岡県では4回目の派遣となります。

3月5日（火）に開催された出発前報告会で、藺田町長は「当町の経験からも災害は復興にかなり時間がかかる。だからこそ皆で支え合うことが基本。使命感を感じながら務めていただきたい」と激励の言葉を贈りました。